

2 防災学習・安全教育の充実

(1) プログラム開発の背景

近年、胆振東部地震や大型の台風、大雪など、これまでに経験したことのない規模の災害が起きている。また、南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝周辺の海溝型地震など、近い将来起きうるであろう未曾有の災害に備えるためにも、国や地方自治体をはじめ、地域住民や個人においても災害時の備えや減災に向けた実践的な取組が求められている。

本道においても、平成27年に「北海道防災対策推進計画」を策定し、過去の災害から得られる教訓の伝承や速やかな避難等を道民の責務として新たに追加するなど、自助や共助の意識・態度を育成する防災教育を更に充実させていくこととしている。

のことから、道立青少年体験活動支援施設においても、体験活動を通して、子どもたちが防災の意識や災害時に対応する力を高めることができるプログラムを開発するものである。

(2) 普及のポイント

未曾有の災害となった東日本大震災を踏まえ、一人ひとりが有事に行動できる資質・能力を育成するため、自然災害等の危険性について理解を深めるとともに、自ら安全に行動するための実践的な学習機会を提供することがポイントとなる。

(3) 各施設実施プログラムの概要

砂川	防災キャンプ
令和3年8月5日（木）～6日（金） (1泊2日)	避難所体験、防災食づくり、講話（被災体験）、防災ゲームなど
北見	防災キャンプ
令和3年7月31日（土）～8月1日（日） (1泊2日)	着衣泳体験、避難所体験、防災食づくり、防災ゲーム、簡易ターブづくりなど
足寄	ネイパル防災キャンプ in あしょろ
令和3年11月13日（土）～14日（日） (1泊2日)	講話、避難所生活体験、災害食試食など

防災キャンプ

1 事業のねらい

避難所での生活を想定した体験や学習を通して、災害への対応力や防災意識、災害後の生活や復旧時に自ら行動しようとする意識を高めて災害に備える。

2 事業の概要

- 期日 令和3年8月5日(木)～6日(金)
- 対象 小学4年生～中学生
- 人数 27名
- 場所 ネイパル砂川
- 協力 砂川市役所総務部市長公室課防災対策係

3 プログラム

	13:00	13:30	14:15	16:00	18:00	19:30	22:00
5日 (木)	集合場所：ネイパル砂川		受付	出会いの集い	Doはぐ体験 「避難所で起こる様々な出来事を模擬体験しよう」	簡単ボリ袋調理 「避難所でも簡単にできるボリ袋調理をしよう」	段ボールベッド体験 「段ボールベッドを作って避難所の寝床を作ろう」
	6:30	8:30	9:30	11:00			
6日 (金)	備蓄食体 掃除・起 床・清 水	防災SDGs すごろく 「防災とSDGsについて学ぼう」	被災体験者語りべ 「被災体験の話を聞いて自分たちができる防災について考えよう」	振り返り	解散時刻：11:30(予定) 解散場所：ネイパル砂川 ※ 避難所体験をするため、電気が十分に使えなかったり体育馆で就寝したりする体験をします。		

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■災害時の備え

- ・ボリ袋調理や避難所体験などライフラインが正常に使えない時の体験を多く取り入れ、災害への対応力が高まるようにした。

■防災に対する意識

- ・実際に被災され、避難した人の話を聞いたり、市役所の防災対策係の職員から避難所についての話を聞いたりし、災害が起きたときに何をするべきか理解が深まるようにした。

■適切な行動

- ・Doはぐ体験で避難所の運営の仕方を疑似的に体験し、地域の一員として自分たにできることを考えられるようにした。



避難所を想定したボリ袋調理



防災意識を高める被災者体験語りべ

5 事業の評価

■アンケートから

- ・「災害時の備え」に関する項目については肯定的な評価が96%であったが、「適切な行動」は89%にとどまった。

■参加者の声

<肯定的な意見>

- ・災害について学校では学べないことを知れた。
- ・今までより防災を意識して生活できるようになると思う。
- ・災害がおこったらどうすればよいか分かった。
- ・実際に避難したら、大人の仕事を手伝おうと思った。

<否定的な意見>

- ・前回の防災キャンプも参加していたのでだいたいのことは知っていた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 感想からも防災意識を高め、災害が起った時に自分たちはどのように対処していくべきよいか考えることができたものと考える。

- アンケートの「適切な行動」が他の項目に比べて満足度が低かった。学習や体験したことを行動につなげるためには、個人や集団で考える時間を確保するなどの工夫が必要である。



企画のポイント

避難所での生活を通じた体験
や学習を通して災害への対応
力や防災意識を高める

防災キャンプ

1 事業のねらい

災害時やトラブル遭遇時を想定した体験等を通して、災害への対応力や防災意識、災害後の生活や復旧時に自ら行動したり貢献しようとする力や意識を高める。

2 事業の概要

- 期日 R3.7.31(土)～8.1(日) 1泊2日
- 対象 小学3年生～中学生
- 人数 17名
- 場所 ネイパル北見、常呂町健康温水プール
- 協力 北海道オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課
(株)スコーレ(常呂町健康温水プール指定管理者)

3 プログラム

H時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
7/31 (土)						受付9:30～10:00 集合：常呂町健康温水プール		着衣泳体験 (常呂プール)	昼食 @常呂	移動 市営バス ターミナル 一業浦	開会式	避難所 シミュレーション	寝床 確保	ハイゼックス炊飯	夕食	片づけ	入浴	体育館で 就寝
8/1 (日)	起床 片付け	朝食	清掃	活動③ 簡易タープ つくり	ふりかえり	閉会式	解散 11:30 解散場所：ネイパル北見											

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 災害時に必要なスキルの向上を図るための体験活動の設定
 - ・常呂町健康温水プールの協力による着衣泳を体験し、水害時の事故への対応を学べるようにした。
 - ・タープ設営やハイゼックス炊飯など実践的な活動を通して、災害時における行動力を高める活動を設定した。
- 災害時に貢献しようとする態度を育てる体験活動の設定
 - ・北海道オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課の協力により、避難所運営について考える活動や避難所を想定した体育館での就寝や共同生活を通して、災害時に求められる助け合いや協力の大切さを実感できるようにした。



着衣泳の体験



参加者で協力してタープを設営

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・「防災に対する意識」の項目について肯定的な評価（「とてもよくできた」「よくできた」）が100%、「適切な行動」についての肯定的評価が94.1%であった。
 - ・「災害時の備え」の項目について、「とてもよくできた」の回答が29.4%であった。「よくできた」の回答が58.8%あり、合計88.2%の肯定的な評価であったが、日常の準備に対する意識付けに更に工夫が必要であった。
- 参加者の声
 - ・もしもの時は私や友達など中学生で率先して行えるようにしたい。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「防災に対する意識」の評価が高かったことから、具体的に災害を実感するための着衣泳や避難所を想定した共同生活の体験等を通して、意識を高めることができたと考える。
- 「災害時への備え」が他項目に比べ評価が低いことから、体験したことを日常で生かす方法を話し合う活動を確保するなど、プログラムの工夫が必要である。



企画のポイント

災害を疑似体験できる環境や体験活動を設定し、防災への意識や行動力を育成

防災・安全

ネイパル足寄

避難所体験をとおして、防災意識と災害時の対応力を高める

ネイパル防災キャンプ in あしょろ

1 事業のねらい

体験活動をとおして災害や防災についての知識を学び、防災意識と災害時の対応力を高める。

2 事業の概要

- 期日 R3.11.13(土)～11.14(日) 1泊2日
- 対象 小学3年生～中学生
- 人数 52名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 十勝総合振興局地域創生部地域政策課
とかち防災マスターネットワーク、とかち広域消防事務組合足寄消防署

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11/13 (土)								12:30 受付		開会式		災害・防災を知る	応急手当の方法	防災食を食べてみよう	避難所体験(就寝準備)		就寝
11/14 (日)	起床	朝食		入浴	片付け	振り返り	閉会式		11:45 解散								

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 防災士や消防士を招き、災害や防災に対する基礎知識をつける
 - ・十勝管内にある地震プレートや実際の被害、防災や減災の講話をを行ったり、怪我をした時の応急手当を体験したりすることで、何を備えなければならないのか、自分には何ができるかなど、自分ごととしてとらえ、防災意識の向上につなげた。
- 疑似断水・停電を行い、避難所での過ごし方を体験する
 - ・限られた水や食料で防災食作りをすることで、災害時でも自分で食事を確保する力が身に付くようにした。
 - ・段ボールを使えば少しでも暖がとれることを体験しただけでなく、パーソナルスペースを確保することでストレスの軽減にもつながることを学び、避難所での過ごし方の理解につなげた。

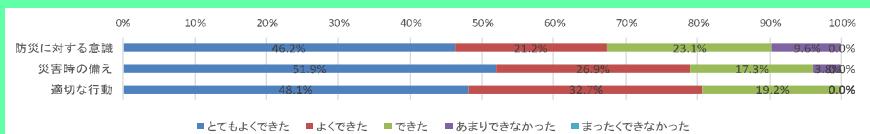


布を使った足の固定方法の実践



導線を意識したパーソナルスペースの確保

5 事業の評価



■共通アンケートから

- ・「適切な行動」の項目では、全ての参加者が災害が起ったときにどうしたらよいか考えることができたと回答した。

■参加者の声

- ・いつかくる「もしも」のために、何かできることをしてみようと思いました。
- ・防災、減災の一歩を踏めました。もっと災害について知りたいです。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 断水や停電を想定した避難所体験を行い、災害が起きた時の過ごし方を実感することができた。また、応急手当の方法を学んだことから、自分でも誰かの手当をすることができるという意識を持たせることができた。
- 参加者の学年の幅が広かったため、災害や防災についてどこまで専門的に説明を行うか、内容を考慮する必要がある。



企画のポイント

災害の基礎知識を学び、避難所体験を元に自分に何ができるか考えるきっかけを与える

防災学習・安全教育の充実に関する体験プログラム(実施した全施設を集計)

【実施の背景】

本道では、近年、地震・津波・台風等による河川の氾濫、大雪による雪害などが相次いでおり、令和元年度の生涯学習に関する住民の意識調査によると 80.0%が日常生活における課題の中で、「防災に関するこころ」をあげるなど住民の防災意識が高まっており、災害時に対応できる備えや適切な行動を学ぶ機会への重要性が増している。

こうした中、これまで道立青少年体験活動支援施設では、防災教育に関する事業を実施しているが、本道でも台風の上陸が近年相次いでいることやこれまで経験したことのない大規模な災害など新たな課題への対応が必要である。

【主なアクティビティ】

- ・避難所設営体験
- ・防災マップ作り
- ・講師による講話
- ・避難所運営ゲーム (Doはぐ北海道)
- ・防災食づくり
- ・着衣泳体験
- ・救急救命、応急処置講習

【アンケート結果】(回答数 96 名)

